広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	言葉の四つ角〈一般〉
Author(s)	古浦，敏生
Citation	広大言語 , 6 : 44 - 45
Issue Date	1966-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046244
Right	
Relation	

3 , Pers. '	☆-n-	3 , Pers. '	☆-eš
3 , Sächl. '	☆-b-		

なお，Grammatik der Sprache Gudeas von Lagaš. I. Teil, 〔1949〕 p. 196～など参照。

⑦ 詳しくは，拙稿「シュメール語に於けるClass-genderの性格」（「水門」才六号）参照。

広大言語の異材であり，ひたむきな好青年であった川内且昭君の霊前に，謹んでこの拙文を捧げる。

（昭和四十一年十月二十三日夜）

言葉の四つ角

古浦敏生

散歩をしていたら，ある家の玄関先に，「犬が飛び出し危険です。開けないで下さい。」と云う立札があった。羽のはえた犬がいるのかと期待してのぞいてみたら，なあんだ，跳ぶだけではないか。

最近の道路標識にはむつかしいものがある。e.g.「自動車及び原付」。大学卒の教養ある(?)筆者でも「原付」はわからなった。「ゲンブ」，「ハラツキ」，？？しかし，これは，「ゲンツキ」と読むらしい。くわしくは「原動機付自転車」のことだそうである。

省略で思い出したが，筆者は，ある医院の窓口で看護婦に話しかけられ，ギョッとしたことがあった。看護婦が美人だったからではない。「ケンポですか？」ときかれたからだ。でも，これは，やがて，「健康保険」の略であることがわかった。

隣りの婆さんの御令息（といっても５０才位）は，油絵の趣味があり，昨年，日展に入選した。そこで，婆さん曰く，「せがれのアトリマを作ってやりたい」。これは，「アトリエ」が正しい形だが，「客間」，「応接間」，etc. にひかれたものらしい。

デパートの婦人用品売場には，「婦人用指付タビックス」という新製品がある。これは，タビとソックスをかねた便利なものである。

喫茶店「栄望」にて。おや，呼び出しがかかった。「○○さん，入口の電話におかかり下さいませ。」まさか，電話にぶらさがるわけではあるまい。

朝日新聞のスポーツ欄にも面白いものがある。「南海1－0東京（9回戦）〔評〕東京はまたも打線を組み替えるなど打撃不振の打開策を試みたが，これも実らず，小山の好投を見殺した。」，「阪神3－2大洋（20回戦）〔評〕稲川は8回2死3塁で山内との勝負をさけてこのピンチをのがれるなど，慎重な投球をみせながら，遠井への3球目は，あまりにも絶好球すぎた。」

テレビの解説者の言葉にも味のあるものが多い。神風氏曰く，「大鵬は，ある程度以上大丈夫ですよ。」これは，大丈夫の度合が「ある程度」ではなくて，その程度をうわまわることを意味しているのだろう。玉の海氏曰く，「明武谷が土俵の外へペロッと足を出した。」これは，「ペロッと舌を出す」へのアナロジーか？

同じく相撲のアナウンサーの言葉にも，時々，面白いものがある。e.g.「2横綱と1大関が土がついた。」これは，「……に土がついた」とすべきであろうが，「土がつく」全体で「負ける」という意味を持つ1つの動詞だと解すれば，上記の文章も良さそうだ。また「横綱にとってゆだんもすきもできない相手ですね。」は，「ゆだんもすきもない」と「ゆだんできない」とのコンタミネーションであろう。

最近，用法がゆれていると思われるものに，「上半身：下半身」がある。筆者が習い覚えたのは，「ジョウハンシン：カハンシン」であった。けれども，最近のテレビやラジオでは，「カハンシン」よりも「シモハンシン」をよく使うようだ。この間は，「シタハンシン」というのも聞いた。他方「ジョウハンシン」の方は，比較的安定しているようだ。

ラジオのニュース。「台風○号のため，本日の宇高連絡船は，全部，ケッコウしました。」これは，もちろん，「欠航」であるが，「決行」を思い出すと，「結構」ではない。また，「台風○号のため，国鉄山陽線○駅から○駅の間は，現在，フツウになっています。」これは，もちろん，「不通」のつもりだが，「普通」ならば楽に通れるのに。